

第4学年 学級活動（2）指導案

日 時：平成26年10月10日（金） 5校時
 児 童：4年2組 男8名 女10名 計18名
 指導者：柵山 千恵
 （かがやきサポート 倉本 里美）

【研究主題】ふるさとの復興を担う「人づくり」の展開 ～「自分から」かかわり、学びを深める児童の育成～

震災当時、私は内陸部の小学校に勤めており、大きな揺れを校舎内で経験した。地区ごとに子どもたちを送り届け、その後自分は自宅待機という形で数日を過ごした。その後に私がテレビで目にしたものは、沿岸部の小学校が避難場所となり、そこにいるたくさんの人たちが数に限りのあるものを分け合い、協力し合っている姿だった。私自身は、自宅に居ながらも普段と異なる生活に戸惑い、そして普通の生活のありがたさを痛感しながら過ごした。

本学級の子どもたちは、3.11当時は小学校入学を控えた年齢であったため、震災後、自分たちがどのように生活したのかを鮮明に記憶しているというよりは、印象に残っている場面を断片的に記憶しているように感じる。しかし、期間や環境に個人差はあるにせよ、普段とは違う生活を余儀なくされたことは共通している。普段の生活の場面において、指示を仰ぎその通りに行動しようとする意識が強いと感じる場面がある。それはとても大切なことでありながらも、今後はさらに自分から「人、もの、こと」に関わり主体的に考える力も必要な力と考える。

本題材「君なら どう使う？」では、生活用水が使えない状況下において、他のもので代用しながら生活していくための方法を考える。考えていく中で、普段は何気なく使っているものや最後はごみとして扱っているようなものであっても、考え方や見方を変えることで使い方の可能性が広がっていくことに気付くであろう。身近な具体物について、どのような活用ができるか真剣に考える姿勢を認め、生活に結び付いた自由な発想のよさを大切に扱うことで、様々な角度から物事を見つめられるような子どもに育てていきたい。

1 題材名 君なら どう使う？

2 題材について

(1) 学習指導要領に示されている指導目標及び内容との関連

○目 標

学級活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。

○内 容

[第3学年及び第4学年] [共通事項]の中での位置付け

学級を単位として、協力し合って楽しい学級生活をつくとともに、日常の生活や学習に意欲的に取り組もうとする態度の育成に資する活動を行うこと。

[共通事項]

- (1) 学級や学校の生活づくり
- (2) 日常の生活や学習への適応及び健康安全
力 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

○学習の系統（本校の防災教育の学年別目標から：観点は「生きる力」を育む防災教育の展開 文部科学省より）

	ア 知識、思考・判断	イ 危険予測・主体的な行動	ウ 社会貢献・支援者の基盤
低 学 年	☆教師や放送の話や指示を注意して聞き、理解できる。 ☆日常生活や災害発生時の安全な行動の仕方が分かる。	☆安全・危険な場や危険を回避する行動の仕方が分かり、素早く安全に行動できる。 ☆危険な状況を見付けた時、身近な大人にすぐに知らせることができる。	☆高齢者や地域の人と関わったり、友達と協力して活動に取り組んだりすることができる。
中 学 年	☆地域で起こりやすい災害や地域で過去に起こった災害について知り、安全な行動をとるための判断に生かすことができる。 ☆被害を軽減したり、災害後に役立つものについて理解したりすることができる。	☆災害時における危険を認識し、日常的な避難訓練等を生かして安全を確保する行動ができる。 ☆危険な状況を予測し、日常からの環境整備に気をつけることができる。	☆自分たちの生活を支える人々に感謝する気持ちをもち、周りの人々と協力して人の役に立つ行動をとることができる。
高 学 年	☆災害発生のメカニズムの基礎や過去の災害例から危険を理解することができる。 ☆備えの必要性や情報の活用について考え、安全な行動をとるための判断ができる。	☆日常生活において、災害についての知識を基に、正しく判断し、主体的に安全な行動をとることができる。 ☆被災の軽減、災害後の生活を考え、備えることができる。	☆地域の防災や被災時の助け合いの重要性を理解し、自分から進んでボランティア活動に参加することができる。

(2) 題材構想図

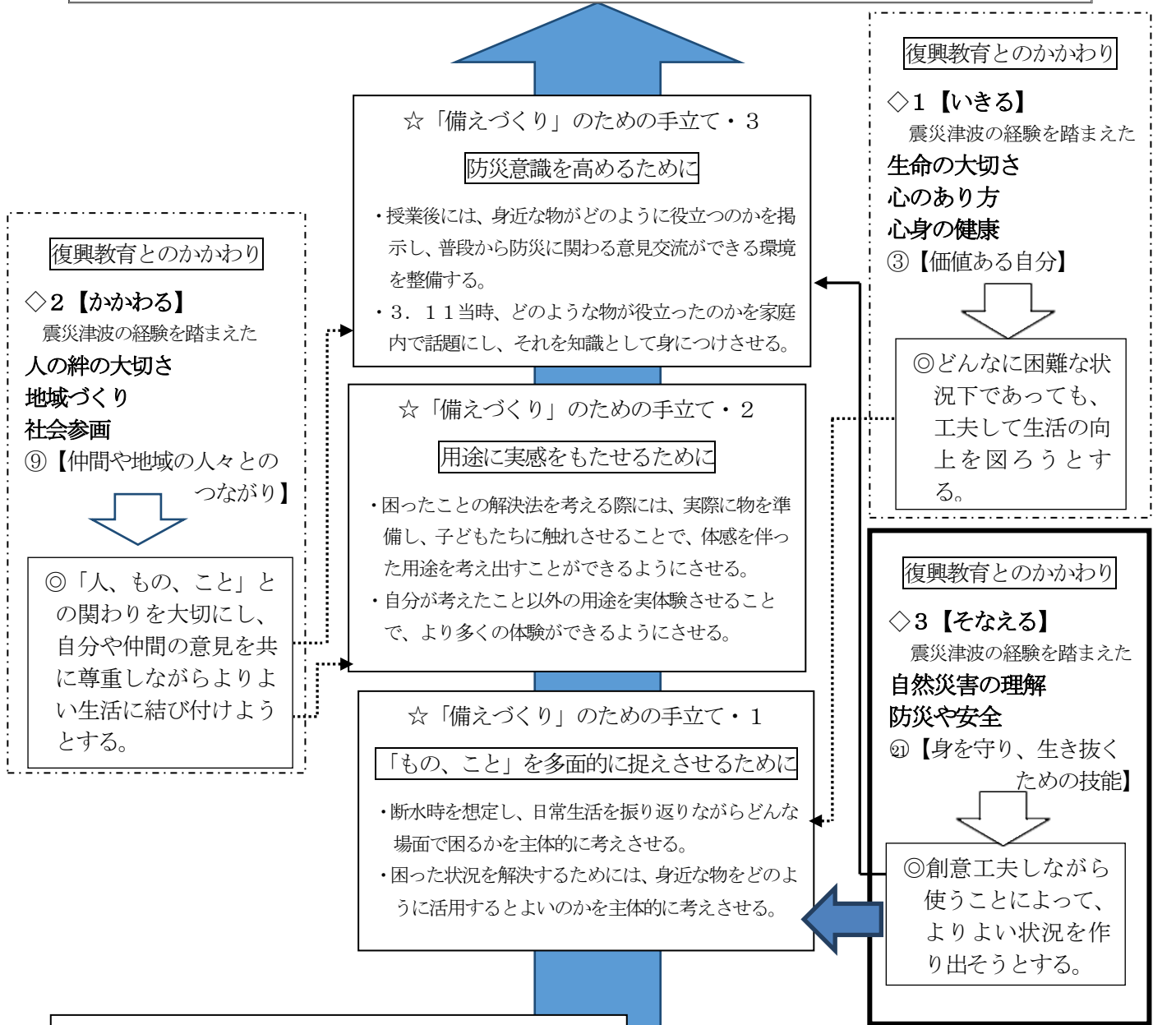
◎本校の復興に向かう合言葉 = 「自分から」

防災教育=復興教育の基礎学習

《本題材で目指す子どもの姿》

【つなぎ合う～備えづくり～】

非常時における「もの、こと」を多面的にとらえ、
よりよい方法を考えて実践しようとする子



【児童の実態】

○社会科「水はどこから」において、宮古市の上下水道の仕組みについて学習し、水の大切さに気付いている。

○係活動を通して、自分たちの生活をよりよくしようという意識が高まってきている。

●震災に対して、大きなストレスを抱えている児童が現在2名いる。

<3.11直後の生活場所、生活経験についてのアンケートから>

3.11直後、児童の半数以上が自宅外での生活を余儀なくされていた。しかし、当時断水状況であったにもかかわらず、半数の児童がその事実を「知らなかった。」「覚えていない。」と回答している。

【題材について】

3.11後、子どもたちは震災がいつ起こるかわからないことを学び、防災に対する意識も高まってきている。その一方で、3年半という月日が経過し、子どもたちは現在の生活に慣れてきている。非常時のみならず、生活の中で与えられたものから自分の発想を広げていくことは、豊かに生きていくことに繋がる。震災時には人々がより安心・安全な生活を求めてどのような工夫してきたのかを考え、その工夫を体験することで、これから起こり得る非常時への心構えと知識を備えることができる題材である。

(3) 題材の目標

集団生活や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活への 知識・理解
自己の生活の充実と向上にかかわる問題に関心を持ち、主体的に日常生活や学習に取り組もうとしている。	非常時におけるより安心・安全な生活にむけての工夫について考えることができる。	避難所などにおける非常時の生活の様子について理解することができる。
【防災教育との関連】 ア 知識、思考・判断 ☆被害を軽減したり、災害後に役立つものについて理解したりすることができる。		

3 指導計画

	活動内容	場	指導上の留意点・資料	評価規準 (評価方法)
事前	○実態調査	朝活動	震災当時を思い起こすことで、生活していく上で困ったことについて考えやすくさせる。	【関心・意欲・態度】 3.11 直後はどのような状況で生活していたのか考えようとしている。(質問紙)
本時	○断水時には、身近なものをどのように活用することができるのかを考える。	学級活動	断水時において、より安心・安全な生活を送るための方法について考えさせる。 (本時の展開を参照)	【思考・判断・実践】 断水時における困窮状態の解決にむけて、身近な物の活用法を考えようとする中で、いろいろなものの見方や考え方をすることが大切であることに気付き、心の備えについて実践しようとしている。 (発言・ワークシート)
事後	○震災時に役立つ物について家庭で話し合い、確認する。	課外 (家庭)	学習したことを生かして、非常時には、どのような物が生活に役立つのか家庭でも話し合うことができるようにさせる。	【思考・判断・実践】 家庭で話し合い、非常時に向けての心構えや自分にできることを実践しようとしている。 (カード)
	○身近な物から非常時に役立つ物を見つけ紹介する。	日常活動	普段の生活から非常時に役立つ物を見つけたときにはいつでも紹介できるような環境を整備し、常に防災について意識できるようにさせる。	【思考・判断・実践】 非常時に役立つ物を具体的に紹介し、防災について意識している。(実践カード)

4 本時の学習について

(1) 目標

○断水時に想定される困難な場面において、創意工夫しながら身近な物の活用法を考えようとするすることができる。

(2) 評価規準

思考・判断 ・実践	断水時における困窮状態の解決にむけて、身近な物の活用法を考えようとする中で、ものいろいろな見方や考え方をすることが大切であることに気付き、心の備えについて実践しようとしている。(発言・ワークシート)	<p><努力を要する児童への支援> 実際に物に触れることで、イメージしやすくさせる。 友だちの考えた身近な物の活用法を参考に考えられるようにする。</p>
--------------	---	---

(3) 「備えづくり」のための手立て

<p>ア 「もの、こと」を多面的にとらえるために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・断水時を想定し、日常生活を振り返りながらどんな場面で困るかを主体的に考えさせる。 ・困った状況を解決するためには、身近な物をどのように活用するとよいのかを主体的に考えさせる。 <p>イ 用途に実感をもたせるために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困ったことの解決法を考える際には、実際に物を準備し、子どもたちに触れさせることで、体感を伴った用途を考え出すことができるようにさせる。 ・自分が考えたこと以外の用途を実体験させることで、より多くの体験ができるようにさせる。 <p>ウ 防災意識を高めるために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3.11 当時、どのような物が役立つのかを家庭内で話題にするように促す。
--

(4) 展開

授業前	リラクゼーション	○気持ちを落ち着かせ、安心して学習に取り組めるように配慮する。	
段階	学習活動 (○主発問☆補助発問) ・期待する児童の反応	○教師の支援	◎評価 ◇目指す児童の姿
つかむ 7分	<p>1 3.11 当時、生活する際に困ったことを想起する。</p> <p>○どんなことで困ったと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食べるものがない。 ・寒い。 ・明かりがなく怖い。 ・物が無い。 ・水がない。 <p>○アンケート結果から、どのようなことに困ったことが分かりますか。</p> <p>2 本時の学習課題を確認する。</p>	<p>○3.11 当時を想像する上で、震災時のことを思い出すのがつらくなる児童には、サポートが寄り添い不安を和らげる。</p> <p>○水がなくて困ったことについて全員で確認する。</p>	<p>◇3.11 では、どのような状況で生活していたのかを考えている。</p>
<p>水が使えないときには、(身近な物を) どのように (使って) 生活するとよいのだろう。</p>			
ふかめる 30分	<p>3 断水時を想定して困ることを考え、ワークシートに書く。</p> <p>○水が使えないと困ることはどんなことですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洗濯できない ・トイレを流せない ・料理 ・お風呂に入れない <p>4 困ることを解決するために、身近なものをどのように活用できるかを考え、ワークシートに書く。</p> <p>○身近にある物をどのように使えそうですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お風呂に入れないからウェットティッシュで体をふく。 ・手を洗えないので、消毒液で消毒する。 ・食器は洗えないので、ラップを使う。 <p>5 自分が考えた解決法について発表し、意見交流を行う。 【つなぎ合う】</p> <p>6 考えた物の中からいくつか体験してみる。</p> <p>7 まとめる</p>	<p>○飲料としての水は、備蓄倉庫、緊急用飲料貯水槽の存在を明らかにする。</p> <p>○実際の非常時には優先順位が低いものであっても、今の生活と結びつけたものであれば取り上げる。</p> <p>○身近な物を活用して解決するという方向性を示し、() 部分を課題に付け加える。</p> <p>○プールや池の水を使うという発想は実際に考えられ実践されたことであり、とてもいい気づきであることとして認めながらも、今回は水以外で代用することを確認する。</p> <p>○身近にある物として、ウェットティッシュ、ビニール袋、ラップ、新聞紙などの実物を用意しておき、イメージしやすいようにする。</p> <p>○状況に応じて、グループでの話し合いを設ける。</p> <p>○自分が思いついた解決法の発表だけでなく、それを受けての質問やさらによい方法などを交流できるようにさせる。</p> <p>○体験することで、よりそのよさに気づくことができる活用法を厳選し、体験した感想を大切にする。</p> <p>○活用法についていろいろな見方で考えたことが、日常における心の備えにつながることをおさえる。</p>	<p>◎断水時には、身近な物をどのように活用できるか考えているか。 (ワークシート)</p> <p>◇友だちの意見の良いところに気づき、自分の意見に取り入れようとしている。</p>

ひろげる 8分	8 本時をふりかえり、これからの生活につなげて自分の考えを書く。 【つなぎ合う】	○家庭でも 3.11 で役立った物は何かを話題にするよう促す。 ○交流カードを用意し、自分の考えた身近な物の活用法などを学級で紹介できるようにする。	◎いろいろな見方や考え方をすることが大切であることに気づき、家庭でもできるものと心の備えについて実践しようとしているか。 (ワークシート・発言)
------------	---	---	---

(5) 板書計画

3.11 後に困ったこと

- ・食べ物がない
- ・寒い
- ・暗い

水が使えない時には、どのように生活するとよいのだろう。

身近な物を

使って

いろいろな見方や考え方

↓

心のそなえ
安心

アンケートより

困ること	使えそうなもの	使い方